

食道裂孔ヘルニアに対して手術が必要な理由

食道裂孔ヘルニアは突発的な胸痛、心窩部(みぞおち)の痛みや不快感、嘔吐、にがいものが口まで上がってくる、喉の詰まり感など多彩な症状を呈します。これらは逆流性食道炎の症状と同じで、食道裂孔ヘルニアでは特にこれらの症状が夜間や寝ているときに出やすく、ひどいときには寝ていても突然の胸痛やみぞおちの痛みで目を覚ますような方がおられます。食道裂孔ヘルニアに対する治療は逆流性食道炎に対する治療と同様であり、胃酸分泌を抑える薬や胃から食べ物を排出されやすくする薬が使われます。胃液の中の胃酸を抑えることで、食道内に入ってくる胃液の刺激性を下げることができ、逆流性食道炎に伴う様々な症状が軽くなります。

逆流性食道炎の原因には食道裂孔ヘルニアの他に食べ過ぎ、肥満、薬の副作用などもあります。食道裂孔ヘルニアの場合は食道と胃のつなぎ目が緩いため、逆流そのものを抑えることができません。このため、突発的な嘔吐や夜間に逆流してくるなどの症状は持続する方がおられます。薬での治療のみではなく、夜間に頭を高くして寝ることや、お腹を締めすぎない、食後すぐに横にならないなどの日常生活での注意点を守ることでも症状を抑えるために非常に大切になります。多くの方はこれらの薬による治療や日常生活の注意で症状が改善しますが、症状が持続する方や大きな食道裂孔ヘルニアの方は外科的治療の適応となります。

【食道裂孔ヘルニアに対して手術が必要な理由】

- ・内服薬によっても逆流性食道炎の症状が改善しない場合
- ・突発的な胸痛を繰り返す場合(特に夜間)
- ・喉の違和感がとれない
- ・誤嚥性肺炎を繰り返す場合
- ・食後に胸の違和感が持続する場合
- ・胃が全て脱出したり、大腸や小腸など他の臓器まで脱出している場合

